

114  
A 3414

第三卷  
七十一  
租稅



和歌頭  
理



十月十四日

明治六年十月十三日

大正十一年四月  
大隈侯爵邸寄贈

銭幣頭同... 考法所規則... 因自由致... 益有之... 成公利子... 才利益兵... 異... 者... 變者... 生... 進... 其... 他... 一... 々... 条... 多... 少... 之... 權... 衡...





才失三セノ為ニ自今暫クハ据置之ナ可然  
 又考メテ一旦別紙申立ノ如キ紙ハ金ニテ  
 示ク夕ニ引出シモ工ハ勿論使用ヲ若サレモ  
 ナレバ其用又ツ揚々ナリ一紙印紙始自法  
 ノソテニ御有様ニお當リカ調ヒ書テ  
 有以汲上善ハ也

九月十六日上達

明治八年九月十六日

得能紙幣頭得能

卿

本紙幣の取扱いに  
 注意  
 支那の紙幣も  
 更なる取扱い

紙幣

三白千四

銀行當座預リ金ノ後者通常立間ニ於テ  
 預金ト稱シ然レモトハ其實大ニ異ナリ其モノ  
 何人ヲ論セテ自己ノ使用ハキ金銀ヲ銀行  
 專托シ兼テ銀行ヨリ通帳並切手帳ヲ受取  
 置キ金高十圓以上ナレバ何程ニテモ其預高  
 應シ入用ノ高ナ切手ハ記入レ何時ニテモ  
 之ヲ引出シ銀行ヲシテ出納ノ計筆ヲナサシメ  
 火災盜難ヲ避クル等ノ便宜ノ為メ一時預



ケ金ヲナス迄ニシテ素ヨリ期限ヲ定ムルナラ  
毫厘ノ利子モ附カルナシ尤銀行ニテ其預リ高  
ノ内ヲ使用セザルニ非ラ且之ヲ預ケテ夕ニ之ヲ  
引出スモ銀行ニ於テ之ヲ拒ムノ權利ナキ故ニ其  
實毫モ使用ノ功能ナキモノニ有之然ル右入  
金ノ節預主ニ交付致シ請取証書ノ儀予  
税規則第一則第一條中預リ金証書ニ照シ  
テ得バ使用ヲ為セル明文無之公ニ二類ノ紙  
貼用不致於テハ不相成様相見一得共前  
文縷陳當通リ當座預リ金ノ義ハ銀行ニ於  
テ毫モ使用ノ功能ナキモノニテ仮令ハ若干圓  
ノ預金ヲナスモノアルモ悉ク之ヲ使用スルモノト  
定メカクシ然レ之ヲ使用スルモノトセバ二類ノ紙ヲ

貼用セザルヲ得ズ素ヨリ拂期日ノ定リタルモノナラ子  
バ何時ニテモ預主ノ申請ニ任セテ拂渡スガ故ニ  
仮令今日百万圓ノ預金アルモ翌日ニ至テハ鎊  
銖ノ金モ残スナカルベシ故ニ英米各國ニ於テ定  
期預ハ些少ノ予税ヲ課スルモ當座預金ノ如  
キハ毫モ課スルナシ云々他ナシ當座預金ナル  
モノハ出入恒ナク使用ノ功能ナキニ因テナリ我  
國ニテハ如斯ク税ノ重キヨリ第一銀行ノ如キ割  
立以テ未タ當座預金ノ取扱ヲナサズ第四第五  
ニ至テモ其取扱フ所口實ニ微ニタルモノニシテ之ヲ  
無シトスルモ猶可ナリ独リ第一而已其高漸ク四五  
拾万圓ニ及フト奈モ新規入金ノ分ハ目今其取  
扱ナシメ紙貼用方同中ニ有之右ハ何レモ使



用ノ功能ナキモノニ高税ヲ拂フ片ハ無益ノ事  
數ヲナス處ニシテ畢竟銀行ノ損失ト相成可  
申ニ付不得已其取扱ヲ停止せ成行可申  
五ノ時ハ人民ノ便利ヲ計ルタノ銀行設立ノ本旨  
モ水泡ニ歸シ民間融通ノ便ヲ奪ヒ塞シ隨テ理  
財上又一種ノ妨害トナラニ必然ノ可有之依  
テハ銀行坐預金ニ限リ特別ノ法註議ヲ以テ  
断然使用ヲ為サレモノト一般ニ見做シ一類ノ予  
紙貼用不苦旨租税頭ニ規則更正ノ義法下  
帝相成ル様仕度以收相同也